

と、ざっとこうだ。

テーマの野の花が決まったからスケッチを繰り返して、「大きさに制限のある型紙と、でき上がる着物の模様の変化や流れなど全体像を同時進行でイメージしながらの延々と時間のかかる仕事をしてデザインを決める」。「七転八倒するくらいにことん苦しみながらの作業」の連続だと釜我さん。それでも「型という制約の中でどう展開していくかを考え抜き、創っていく。そこが楽しい面白」と、ここでも爽やかに言い切る。一つ、次元を超えた創造という自由の境地、限られた空間に無限の可能性を表現しようとする芸術家の強い想いと、それを支え、可能にする技術の表出なのだろう。

こうしてデザインができたから図案を仕上げ、型紙(洪紙)に彫る。並行して全体の配色も決める。つぎに、染める白生地を板に貼ってその上に糊置き(型付け)をすすめるのだが、つねにでき上がる着物の全体像を頭に浮かべながら糊を置いていく作業で寸分のズレも許されない、ヘラ裁きなど研ぎ澄まされた高い技術と並はずれた根気を要する仕事だ。江戸小紋の職



型紙を彫る釜我さん

人の間に「型付け3年、糊8年、ヘラは9年だなにかねる」という言葉が伝わっているくらいである。昭和54年、念願の日本工芸会正会員に認定されたときの「からす麦」など、その作品一つひとつについてはいの思い、思い出が。釜我さんは「仕事場が欲しいな」と思っても、それを口に出せなかった。そんなとき「敏子ちゃん、人生、悔いのないように精いっぱいやってみなさいよ」とお母さんが背中

を押してくれた。また、「30代、40代は必死で勉強しました」と振り返るように、また交通の便の良くない時代に空路、人間国宝・故松原定吉の息子「松原四兄弟」の工房まで「海外にでも行く覚悟で」教えを請うため押しかけ、「本当に来たよ!」と驚かれたことも。

福高時代は「焼き手女子」の草分け!?

そんな釜我さんの福高時代をうかがう段になったのだが、偶然そこに釜我さん受賞を聞いて会場を訪れていた小学校からずっと釜我さんと一緒だったという同期の石田貢さんが合流、博多弁もとびだして話は一気に盛り上がった。

「勉強しなかったせい、か、今でも福高での試験の夢や、授業で教室を移動するとき、行く教室がわからないとか教科書を忘れたといった夢をみるんです」とお茶目に笑う釜我さん。

美術は履修していなかったけれど、美的センスやアイデア、行動力は当時からで、こんなエピソードを紹介してくれた。一つは、「女子の制服の不格好さ」への抵抗で、服装違反常習犯だったとか。また、2年生の秋、バレエ部の練習がすんで、部長の花田先生から釜我さんたちに「運動場の隅の落ち葉を掃き集め、ごみ焼き場に運ぼうとしたとき、釜我さんは「落ち葉をたたき焼いてしまうのはもったいない。焼き芋をしよう」と皆に提案。千代町の市場まで芋を買いに走ったのだ。「夕焼けの空を見ながら食べた、そのときのホカホカ芋のおいしかったこと」と述懐する。



釜我敏子さんプロフィール

- 昭和 33 年 福岡高校卒 (中学は東光中) 現在、春日市在住
- 同 45 年 第5回西部伝統工芸展初出品 以後連続入選・入賞7回。
- 同 48 年 日本工芸会正会員の松原四兄弟に 型染の基礎・藍染を学ぶ。
- 同 50 年 第12回日本伝統工芸染織展初出品 以後25回入選・受賞5回、鑑査員4回
- 同 51 年 第23回日本伝統工芸展初出品 以後31回入選・受賞
- 同 54 年 日本工芸会正会員に認定
- 平成 6 年 東京国立近代美術館主催 「現代型染展」に出品 東京銀座和光にて個展開催 (その他各地で個展)
- 同 17 年 福岡市文化賞受賞、春日市民文化賞受賞
- 同 19 年、 54回日本伝統工芸展・日本工芸会 奨励賞受賞。ロンドン・大英博物館主催 「わびの美・伝統工芸50年」に出品
- 同 21 年 九州国立博物館主催 「工芸の今・伝統の創造」に出品
- 同 23 年 創作活動45周年を記念して 約100作品を展示した「釜我敏子の世界」を福岡アジア美術館で開催
- 同 24 年 第59回日本伝統工芸展 朝日新聞社賞受賞



同窓会当日集まった同期

私たち48回生は昨年6月の福岡での福中・福高同窓会の当番幹事を務めました。といっても社会人になつてずっと東京勤務の私は、実際の準備作業には本番当日以外ほとんど関わっていませんでした。しかし、東京同窓会ではあまり知られていないだけに、博多の当番幹事た

博多同窓会の当番幹事を務めて 「福高つながり」を 考えるきっかけに



花田 雅也(高48回)

筆者

ちの奮闘の一端を紹介させていただきたいと思います。東京同窓会活動の参考になるところがあれば嬉しいかぎりです。

今も印象に残っているのは、同窓会を成功に導くためにできるだけ多くの同期生が集まらなくてはならないと、幹事たちが海外を含め遠方にいる同

期にもフェイスブックなどで参加を呼び掛けたことです。おそらくこれから先、48回生がこんなに多く一緒に集まってくることはないだろうから、「この最初で最後のでつかい同窓会の存在や何たるかについて『知らずして来なかった』という仲間をゼロにしよ

う」と熱く情報発信したのです。その甲斐あって、当日参加はできなくても国内はもとより海外からも、ウェブを通じて積極的に意見やアイデアを伝えてくれた人が大勢いました。そして本番当日は北海道や沖縄からも参加があり、本当に多くの同期が一丸となって取り組んだ同窓会となりました。

こがましいのですけれど、「福高つながり」ということを考える旬のネタだけに、お許しください。また、当日に撮った写真を勝手ながら掲載させてもらいました。ご容赦

今はもうないと聞く 「百人一首部」も全国大会に 出たことがあるとばい！

岩瀬智子(高39回)

美野島小3年のころ、担任の井上悦子先生から百人一首をならった。レクリエーションの時間になると机を教室の後ろに引いて、板張りの床の上にかかるたを並べ学級全員で興じていた。誰が一番先に100首覚えるか競い合い、何人かの同級生とは太宰府天満宮や宗像

大社での競技かるた大会に出場した。井上先生の異動や中学校に部活動がなかったことで、しばしば百人一首から離れていたが、福高で同じクラスになった梶井玲子さんに誘われて再開した。小学生の時とは1勝もできなかった太宰府での大会で勝利したときには、福高とはすごいところだと意味もなく思った記憶がある。



←全国大会でいただいたリボンと記念のバッジ。「あまのはら」は7首目、第7回全国大会であることを示す。

↓私の十八番の「せをはやみ」。裏には寄せ書きがある。まだ持つとうよ。

日々の練習のなかにも楽しい思い出がいっぱいだが、ビッグイベントは2年生時の全国大会出場。当時、福岡県立中央高校、筑紫女学園高校と実力が三つ巴で拮抗していたが、4月に予選1位を勝ち取り、夏の暑いなか、近江神宮での全国大会に臨んだ。出発の朝には博多駅の新幹線ホームで数名の先生方に見送っていた

き、全国大会なのに若干地味だったが、私にとっては初めての新幹線乗車でワクワクしていた。さて、試合日程は2日で団体戦、個人戦(有段と無段の部)があり、初日朝に各チーム並んで宮司さんのお祓いを受け、全国代表16チームが激突した。団体戦は1チーム5人对戦し、3勝したほうが勝ちである。準決



団体戦終了後の記念撮影。黒字が勝者。筆者右端

百人一首部は今ももうないと聞く。歴代の部員が飛ばしまくった、和作法室の棚の中にあつた札はどうなったのだらうと思う。卒業の記念に裏面に後輩部員の寄せ書きがある十八番の札をもらうようになったが、あの習慣も途絶えたのだと思うと少し淋しい。

星岡 盛彦(中23回)



サンデーゴルフア魂に火が付いた！ 78歳頃のエイジシューター達成を目指して

高柳義隆(高7回)

自分の年齢以下のスコアでラウンドするというゴルフの夢の記録達成者・エイジシューターを目指そうなど大変な目標を掲げようと思いついたのは、70歳で現役を退き早や5年がたち、後期高齢者の保険証が送付されてきた昨年4月頃のことである。

※

でもハンデ5以下を保ち熱心にラウンドしていたからだろう。仲間の快挙は嬉しくもあり、また自分への励みにもなる。このとき、私のサンデーゴルフア魂に火が付いた。ハンデの差はあったものの、18ホール・マッチプレーの結果は、1アップで私が勝利してベス

ト8に。その成績からハンデは6になった。その後、会社の株式市場を控えハンデの維持がままならなくなり、クラブ競技にも参加しなくなった。それでもゴルフへの情熱は持ち続けたので、名誉ハンデとして7で登録し今日に至っている。

趣味と言えばゴルフくらいしか持ち合わせのない仕事人間には、医者に勧められた運動としてゴルフをし、エイジシューターを目指して努力すれば「一挙両得」になる。ここは初心に帰り、年齢に応じた基礎体力の向上スイングの見直しとエクササイズ、コースでの実践ラウンドなど、計画的に実行することが大切である。ラウンドの機会があれば積極的に参加しよう

と準備している。目標達成のチャンスは、体力、熱意、頻度、幸運などを総合して考えると、78歳くらいではないかと希望的な予測をしている。

われらが東京福中・福高同窓会のゴルフ同好会にも参加させていただきゴルフを通じて旧交を温めると同時に自身の健康増進と「その日」に備えて頑張っていこうと心算させている。



「福高入学還暦七福会ゴルフ」

優勝者・藤野さんの左が小林彰・前福中福高同窓会長。後列左が筆者

「東京スカイツリー」ミニ解説

日本のモノづくりの

知恵と技の集大成

伝統美と未来への躍動感を体現

谷村 秀喜(高40回)



側にくつくとわずかに膨らんだ「むくり」の形になっていて、寺院や神社の柱を連想させます。このスカイツリーのしなやかでシャープな立ち姿は、見る角度によって変化し、日本古来の伝統的な美意識と未来への躍動感を同時に体現するデザインです。

構造上の特徴では、高さに対して敷地が狭いことから、形状として不安定であることに加え、振動周期が長く揺れやすいという構造上の課題がありました。この課題に対しては、当社が新開発した「ナックルウォール」という節付きの壁杭を採用。これは地盤に杭が食い込むことで杭の押し込みや引き抜きに抵抗し、小さな面積でタワーの足元を支える働きをしています。

多くの関係者の英知と力を結集し、日本古来の伝統を引き継ぎながら造られた東京スカイツリーは、日本のモノづくりの知恵と技の集大成ともいえるでしょう。

この英知や力を次世代に伝えていく役割もスカイツリーが担ってくれることを願いつつ、簡単な紹介をさせていただきます。ぜひ遊びにいらしてください。



屋上緑化に取り組む

大学卒業以来、私は北九州に本社のある園芸散水用品メーカーに勤めています。入社当初は別事業部で営業職に就いていましたが、2008年度より屋上緑化事業に携わっています。

わが社の屋上緑化の特徴は、粒状肥料などを混合させた人工軽量土壌と自社オリジナルの散水アイテムを標準仕様として

笑顔と自然環境をつくる仕事に手応え
「水」「環境」「緑化」を通して
新しい生活スタイルを
提案したい！

清水 一平(高51回)



おり、プランニングからメンテナンスまでを含めたトータルシステムが屋上緑化商品の主な構成となつています。自社の既存事業の取引先である住宅業界を中心に提案を行い、今まで首都圏をはじめとする都市部にて分譲マンションや商業施設など多数の屋上庭園を完成させてきました。中でも私が印象に残っているのは、幼稚園の屋上緑化を行った時のこと、完成したばかりの屋上庭園でたくさんの園児たちが楽し

そうに裸足で遊びまわる姿を見た瞬間、多くの喜びとこの仕事の意義を感じることができました。

今後の屋上緑化を取り巻く環境と私の思い

今まで一般的に屋上緑化を中心とした環境活動では、「CSR(企業の社会的責任)の一環」や「緑によるCO₂削減」「コミュニケーション」などがテーマとなることが多かったのですが、2011年の東日本大震災を機に

「省エネ」「省電力」といったキーワードが急浮上してきました。自然エネルギーの有効活用やスマートハウスなどという新しい生活スタイルが提案される中、屋上緑化も



池田 典子(高18回)

私は篠栗町、若杉山のふもとでささやかなギャラリー・カフェ「ゆずりは」を営んでいます。画家、だった亡夫の遺作を展示するために、思い立ってアトリエを改装してギャラリーを始めたのが6年前。この10月で7年目に入ります。

お客様にはコーヒーや簡単なランチも楽しんでいただくとう小さなキッチンもつくりました。ギャラリー経営にはまったくの人材だったのですが、多くの方の協力や励みのおかげでここまで歩ん

作品が主ですが、時には個展やグループ展に会場をお貸しすることもあります。昨夏は陶器展と木の家具展を開催しました。コンサートや童話講座、また「ゆずりは寄席」と銘うった落語会は秋の恒例となつていて地域の方に喜ばれています。

一昨年12月には「ミツバチの羽音と地球の回転」というドキュメンタリーの上映会も催し、100名のお客様をお迎えすることができました。「ゆずりは」始まって以来の忘れられないビッグ

でこれたことに感謝しています。特に18回生にはお世話になりました。HPを作ってくださった方、度々足を運んでくださる方、「ゆずりははつぶれとらんね」とメールを送ってくれる方...

常設は亡夫の作品が主ですが、時には個展やグループ展に会場をお貸しすることもあります。昨夏は陶器展と木の家具展を開催しました。コンサートや童話講座、また「ゆずりは寄席」と銘うった落語会は秋の恒例となつていて地域の方に喜ばれています。

イベントとなりました。さて、私達団塊世代の18回生もいよいよ高齢者の仲間入りです。同窓会では黙祷をささげる物故者も多くなりました。私も自身も近頃あまり無理はきかないな、と感じることがあります。これからマイペースで楽しみたい、「アトリエとくつろぎの空間」という当ギャラリーのコンセプトを大切に

品メーカーでこそ成し得る「水」をキーワードとした環境配慮製品と屋上緑化システムを開発し、新たな生活スタイルを提案していきたいと思っています。



亡き夫、正臣さんの作品が観られる
ロマンあふれる店内の様子

会員拡充等に関する 若い会員へのアンケート結果報告



東京同窓会の一層のパワーアップに向け、 環境づくりに取り組もう!

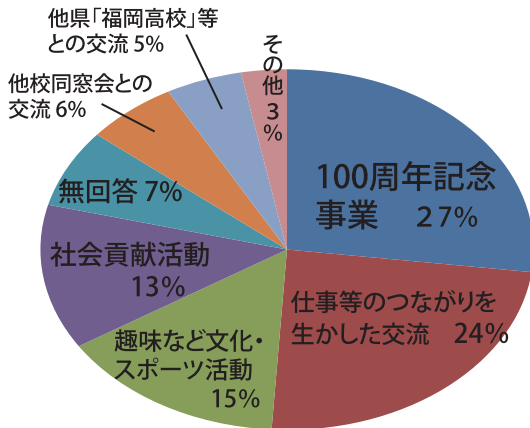
会員拡充委員会委員長 新谷 康之(高35回)

会員拡充委員会と広報委員会では、東京福中・福高同窓会(以下東京同窓会)の活動のパワーアップをめざし、若い世代の会員拡充等に取り組む上での参考とするため、昨年4月に開催された東京同窓会総会・懇親会の会場で、主に高40〜60回台の出席者(全82名、18歳〜40歳前半)を対象に面接アンケート調査を行いました。会場がごった返すなか、会うことのできた53名から回答いただきました。

以下、主な結果を報告します。

回答者の構成は、性別(男性・約26%、女性・約72%)、部活動等(体育系・約66%、文科系・約23%)、職業(学生・

<参加したい同窓会活動>



約26%、民間企業・約62%)でした。

東京における連絡状況を確認するため、「東京での同期会等開催」の有無を伺ったところ、約6割が「同期の集まりがある」ことを知っている一方、3割以上が「わからない」と回答。同窓会や同期会などの会合の情報交換をより一層わかりやすく行いやすい環境づくりが必要なのが浮き彫りとなりました。

東京同窓会のウェブサイトを見たことがありますが、か?との問いには、60%が見たことがある、と回答し、そのうちの84%が見てわかりやすかったと評価しました。今後の工夫としては、懇親会や交流会の情報を見やすい個所に掲載する、写真を増やすなどの提案がありました。

さらに、フェイスブックを通じた交流に参加してみたいと思うか尋ねたところ、半数強が参加してみたい、と回答。この結果を受けて会員拡充委員会では、フェイスブックの活用具体化に向けて検討を深めていくこととしています。

同窓会のどのような活動に参加してもよいか聞いたところ、仕事等つながりを生かした交流や、約4年後に控えた福中・福高創立100周年の記念事業などが多く選択されました(図)。

今回のアンケート結果を踏まえて会員拡充委員会では、若い会員の皆さんにも同窓会活動の活性化に力を発揮して頂くた

めの環境づくりを進めていきたいと考えています。

なお、アンケートの詳細な結果は、東京同窓会 覧ください。

「囲碁愛好会」を立ち上げました。

修猷館OBとの交流も。奮ってご参加ください!



三船孝生(高9回)

先日、博多で福中・福高OBの囲碁愛好会で幹事役を務めている同期の浦瀬君から電話があり、「博多では年2回修猷館OBたちと対抗戦ばかりやうとよ。東京でも好きな人が集って交流会をやるようにせんね」とのことでした。

以前から東京の仲間の親睦会でも、関東にも囲碁愛好家が相当おいでになるようなので、なんとか集まって楽しむようにしたいと語らっておりまして。そこでこの度、「東京福中・福高囲碁愛好会」を立ち上げました。

そんな折、東京あさばらけ編集委員から、囲碁愛好会の立ち上げの記事を載せたいので書いてほしいとの要請を受け、会の紹介と同窓会員の皆さまのご参加をお願いして小文をしたためた次第です。

最初の活動として、昨年11月に都内で関東の修

左手前が筆者、右手前が浦瀬さん(福岡の福高OB「囲碁同好会」例会で)
連絡先: 三船孝生 046-224-4231
E-mail: takaemim@ai.ayu.ne.jp



「同窓生の著作紹介」



ハーバード・ケーススタディ方式で
企業財務を学ぶ
山田晴信著
金融財政事情研究会 刊

東京同窓会前副会長の山田晴信さん(高20回)が書いた企業財務の入門書が昨年出版された。日経新聞や週刊エコノミストなどでも書評に取り上げられ、都心の大手書店では平積みされて好評である。著者がかつて学んだハーバード・ビジネス・スクールのケース・メソッドを参考に、会社の設立や株式の公開などの企業の節目で、財務担当者とはどんな視点を持ちどんな戦略を立案すべきなのかを実際の事例(ケース)を用いて説明している。

本書の特徴は、ケース毎に企業とE大学のファイナンス担当の財務教授との対話を通して、企業財務の典型的な問題の設定とアプローチの仕方を学ぶところにある。つまり、ファイナンス理論と実務的なニーズとの間の谷間を埋めて、理論の教えるところを実務に応用しやすいように配慮されている。

とりわけ第4章では、電力会社のあり方を資本構成の観点から「フクシマ」以前と以降とに分けて考察しており、極めて興味深い。

企業の経営者・財務担当者や金融機関の企業担当者だけでなく、この分野に興味ある一般の読者や学生にもお勧めしたい一冊である。

多品種少量生産向機械総合メーカー

省力化の水先案内人



- ・液体・粘体充填機
- ・チューブ充填機
- ・キャッパー
- ・各種自動機
- ・ボルト洗浄機



取締役会長 柴田智恵子 (高6回)

シバタエンジニアリング

〒234-0055 神奈川県横浜市港南区日野南2-21-6

TEL.045-835-2577 FAX.045-835-2578

www.shibataeng.co.jp

東京二寿会

福高20回生

同期会会長 高木 雅治 幹事 都島 良治

原口法律事務所

弁護士 原口 紘一 (高15回)

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-20-16

ダイカンプラザシティⅡ304

TEL 03-3361-9633

FAX 03-3369-6664

円満紛争解決学

検索

ぶ〜さんはいぶ

おかげ様で1月で15周年を迎えます。

お近くにおいでの際はお待ちしております。

幸福会(高29回)
加茂 千絵〒810-0801
福岡市博多区中洲2-4-20
第21ポールスタービル2F
TEL:092-263-0146

板橋区サンシティ

団地同窓会



大石 勇吉 (高1回)
内田 明子 (高15回)
吉村 光正 (高20回)

おいしさひとすじ、
健康に良いお菓子を...

筑紫菓匠 如木庵

森 悦次郎(高18回) 三角 俊一(高18回)
森 英俊(高44回) 佐藤 理子(高45回)
浜砂 亮子(高52回)

TEL (092) 431-0052(代)

http://www.josuian.jp

ふるさと博多で
特別なひととき。
博多へお帰りの際は、ぜひご利用ください。



P R E
S I
D E N T
HOTEL HAKATA

プレジデントホテル博多

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-23-5 TEL092-441-8811 FAX092-441-8662

URL: http://www.presidenthotel-hakata.co.jp

友杉 貴一 (高16回)

福中・福高同窓会の指定ホテルとしてご利用ください。



福中・福高同窓会

会長 新宮 松比古(高9回)

事務局 〒812-0044

福岡市博多区千代1-5-19

Tel・Fax:092-641-7258

http://www.fhs-dosokai.com

成長企業の財務面からの経営コンサルティング

株式会社 アヴァルセック

All Value Securitization = AVALSEC

企業が保有するあらゆる資産価値の証券化を
アレンジメント

本部 〒105-0013

東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル3F

電話 03-5777-1500 FAX 03-5777-1501

本社 〒813-0011

福岡県福岡市東区香椎1-8-20

電話 092-681-2408 FAX 092-402-1525

代表取締役

有田 明浩(高30回)

Eメール arita@avalsec.co.jp

URL http://www.avalsec.co.jp

黒永会計事務所

税理士 黒永 哲至 (高26回)

〒160-0023

東京都新宿区西新宿7-21-21

西新宿成和ビル3F

TEL 03-3363-0118

FAX 03-3363-0366

http://www.kuronaga-ac.com/

傘寿

新たな未来への門出!



東京高四陽会

船出会

(高27回)

たまには博多に
帰ってこんね。
待とうよ!



辰巳会

福高11回同窓会

東京支部

みんなで同窓会を 盛り上げましょう



株式会社
三菱東京UFJ銀行 名誉顧問

佐伯 尚孝 (高5回)



宮脇利泰 (高26回)

中央区銀座4-10-1 銀座AZAビル8F 03-3545-0897
<http://www.barchair.jp>

石寄・山中 総合法律事務所

弁護士

石寄信憲 (高19回)

〒104-0028

東京都中央区八重洲 2-8-7
福岡ビル 6F

TEL 03-3272-2821

FAX 03-3272-2991

博多に行ったら

丸山 陽子 さん (高7回)

陽子の部屋

〒810-0801

福岡市博多中洲2丁目1-5

陽光ビル5F

TEL (092) 271-2646

TEL・FAX (092) 271-2664

で飲んで
語ろう!!

東京「陽子の部屋」応援団
団長 福士義彦 (高14回)

福高10回生・東京同期会

東京福寿会

集え、在京同期生!
会して飲まん!

事務局: 〒141-0022

東京都品川区東五反田

1-8-10-501

☎03-5488-1998

馬場紀久夫 mail: kbaba5182@amy.hi-ho.ne.jp

黒田節・福岡県



心は今でも福高生 八起会 (高8回)

関東支部 世話係

岩隈 宏一 豊原 亞洲

柴田 斎 亀山 忠義

岩田 芳雄

博多 登録 だき 商標



東京 新三浦

中央区築地1-8-1

白井 善三郎 (高3回)

別館(築地本店のうら手)

◇築地本店 ◇新三浦ガーデン

Tel. 03-3541-0811

Tel. 03-3541-0141

東京七福会

福高七回卒業生

世話人

大音 康毅 黒田義治
小池美智子 中村 保

ふえいすぶっく始めました

お気軽に原稿などお寄せ下さい

出版をはじめ
よろずご相談承ります



寿士会ブログもあります

福士義彦(高14回)

〒107-0061 港区北青山1-4-1
ランジェ青山808

(株) トロント

☎ 03-3408-1521

FAX 03-3408-1448

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~AF100393/toronto/>



〒812-0043

福岡市博多区堅粕1-30-1

電話 092-651-1986

<http://www.ishikura-shuzou.co.jp/>

石蔵 利正 (高29回)

石蔵酒造 株式会社

FIRST DESIGN NETWORK

商業施設・オフィス・ショールーム
デザイン・設計

代表取締役

岡本博幸 (高20回)

東京都渋谷区恵比寿1-23-9

〒150-0013

TEL: 03-5423-5150

FAX: 03-5423-5160

E-mail: okamoto@f-d-n.co.jp



占部正尚 (33回)

電子書籍

商才坂本龍馬に学べ

研修用DVD

ペップトーク研修

詳細はホームページで!

マーケティングオフィス・ウラベ

東京都文京区本駒込5-40-5-902 03-5814-6935

<http://homepage3.nifty.com/urabe0607>

心の導火線に
火をつける
ペップトーク研修
(ビジネス版)



アサヒビール本社すぐ近く

浅草うつのみや亭

今話題の餃子専門店

店舗 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 1-15-4
TEL & FAX 03-3622-5339



株式会社 オフィス ビッグルーフ

本社 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 1-15-4

TEL & FAX 03-3622-5339

URL <http://www.office-bigrooft.jp>

E-mail k-oya@office-bigrooft.jp

代表取締役

大屋克文 (高24回) 携帯 TEL 080-6688-0901

(洗顔石鹸: 深海の精)

ワルシャワの秋 ポーランドの歴史が生んだ 音楽の秘めたるものを追い求めて



松尾梨沙(高54回)



9月初旬のポーランドは、すでに初冬の様相。セーターにコートを羽織って外に出ると、きりりと澄んだ空気が頬を刺す。灰色の空を仰ぎながら胸一杯にそれを吸い込むと、日本に居た頃の自分が上書きされていくような、妙に新鮮な感覚が呼び覚まされる。

シヨパンの音楽は、この土地の空気や文化の、一体何に最も深く根ざしていたのだろう。それ

を掴みたくて、2010年からワルシャワ大学音楽学研究所で研究調査を行い、一昨年夏に一度帰国した。日本では東大の比較文学比較文化研究室で音楽学を専攻し、シヨパン研究での博士論文執筆に向け、準備の最中である。まさに福高時代には、10年後に旧共産主義圏で研究しているなど、思いも寄らないことだった。

高校の頃は、ポーランドの作曲家ペンデレツキ(1933-)の音楽をまだ知ったばかりで、へえと他人事のように感心していたものだが、10年後にはワルシャワの音楽祭で、本人の自作自演を目の前で聴いていたのである。

またあの頃は、シヨパン音楽院のカヴァラ教授が初来福され、幸運にもレッスンをさせて頂いたことがあった。当時は先生の的確な指示と、ご本人



「ワルシャワの秋」を満喫する筆者

の演奏に深く感銘を受けたものだが、10年後にはワルシャワで再会し、ポーランド語でやり取りしているなんて思っても見なかった。2010年のポーランド滞在は、そんな驚きと喜びの連続だった。

2012年9月より、再びワルシャワに戻ることにした。シヨパンの音楽に根ざしているのはまさにこの土地の「言葉」だと、いま私は確信して研究を進めている。シヨパンが親友ヤンに宛てた手紙に、次のような一節がある。

“Kochany Jasni! Kochany Janku! ... Kochany Jasni! (愛するヤシ! 愛するヤシ! ... 愛するヤシエク!)”

自ら記した Kochany Jasni! という節が「音楽的に響いた (brzniał muzycznie)」と感じたシヨパンは、同じような表現で3回も繰り返した。彼にとって、言葉は音楽だったのだ。ポーランド語は、比較的アクセントが弱く子音が多い。私にとつてはまさに《黒鍵のエチュード》のように、それは細かく煌めく音の粒のように響いてくる言葉なのである。

そんな学問どこにあるの? いえ、どこにもありません。弁護士は私自身から入門するんです。普通何々学入門というの、その道の碩学が書くものですが、これは今から自分が入門というわけです。

円満解決と聞くと、悪いイメージのほうがいいイメージ、我慢我慢、泣き寝入り、馴れ合い、裏取引、とにかくお金で、等々。これに比べ裁判は公正な裁判官が悪を懲め、正義を実現してくれる。

もちろん社会的基準を明確化すべき事案は、公開の法廷で審理し判例としてキチンと残してもらわねばならない。

しかし日常の私人間の紛争は、たいがい円満解決のほうがずっと良い結果が得られ、その後の人間関係も良好になります。そのような優れた円満解決のための理論と技法が今求められているのです。従来の悪弊をなくし、お互い心から納得できる解決へ導くための方法。五千年の歴史の中で形成

された訴訟手続き、その理論を学び実践する中で身につけてきた法曹としての技法と倫理、これを生かし裁判手続きも有効活用しながら、正しい円満解決を実現する方法、その理論と技法を明らかにしていきたいのです。お上の裁きである裁判に頼るばかりでない、自立的な社会、自主的な人間関係の形成に紛争解決を役立てられればとの思いです。今急増中の若い弁護士たち、調停委員など紛争解決に関与されている民間の方々、裁判でつらい思いをした人たち、などのためにも新しい道を拓きたいのです。

今日は、欧米型の訴訟社会に突き進みつつあります。しかし世界は逆に地球全体が島国状態となり、島国日本で培われてきた紛争解決原理が見直されつつあります。日本の価値を再発見し、より良い紛争解決方法をつくりたい。関心ある方々からのご助言と情報提供を期待しています。

「円満紛争解決学入門」って?
お上の裁きにばかり頼らない
より良い紛争解決の道を
拓くために

原口 紘一 (高15回)



円満紛争解決学

検索

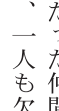
ところが現実にはそんなに甘くありません。現実社会に疎い裁判官が大量の事件を担当し、迅速処理に精を出す。お上の裁きである裁判に頼るばかりでない、自立的な社会、自主的な人間関係の形成に紛争解決を役立てられればとの思いです。今急増中の若い弁護士たち、調停委員など紛争解決に関与されている民間の方々、裁判でつらい思いをした人たち、などのためにも新しい道を拓きたいのです。

『ともがら』を編む

す。

その寿禄句会が昨年1月14日に50回を迎え、このほど記念の合同句集「ともがら」を作りました（写真）。平成15年2月からだから、9年を要しての快挙です。句会は二次会の談論

最初12人だった仲間が16人となり、一人も欠けずに続いているのは、願わくば「天」をとりたいと思う多少の向上心もさることながら、句会終了後、



16人となり、一人も欠けずに続いているのは、願わくば「天」をとりたいたいと思う多少の向上心もさることながら、句会終了後、二次会の談論

め提出しておいた句に対し、師が一句一句、4段階の評点と句評を下さいます。特に新人を何とか引き上げようとなさる姿は、俳句一途な師の生き様をまざまざと見せつけられます。また終了後のお茶の時間にはフランク

な姿勢に接することができ、地元なればこそとありがたく思います。

句友の作品をご紹介します。

明かな
鰻肝

一
言齋
梅鄉爺
虛夢

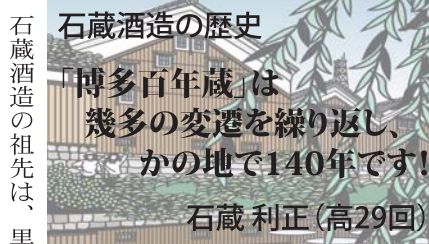
本樂
空遊

春鳥
松毬子
高尾

ちか女
とんぼ

馬骨 枳殼 枳實

福香 槽石



石蔵酒造の歴史

「博多百年蔵」は
幾多の変遷を繰り返し、
かの地で140年です!

石蔵 利正 (高29回)

の折は、多くの方の温かい励ましをいただき、お陰さまで昨年1月から営業再開の運びとなりました。ありがとうございます。

140年を超える業歴

の中で、国登録・有形文化財の酒蔵を博多の大切な景観のひとつとして守り、今後も酒造業を中心に据えながら新たな取り組みに挑戦し、博多っ子に愛されていきたいと思っています。

A photograph of the exterior of the Nishimura Warehouse, a traditional Japanese building with a tiled roof and a tall chimney. The building features white walls and dark wooden accents, including a prominent entrance and large windows. A tall, dark chimney is visible on the left side of the building. The sky is blue with scattered white clouds.

応援団長が保父さんに!?

「森の幼稚園」で
子どもたちの日々を楽しむ

松本 信吾 (高39回 広島県東広島市在住)

附属幼稚園は、園庭がそのまま山とつながっている、日常的に森に入っている保育を行っているいわゆる「森の幼稚園」です。保育室に入らずに森に登園し、一日中過ごすこともよくあります。森の中で四季の自然に触れ、五感を通じた原体験をし、便利な遊具などがないなかで遊びを生みだし、森の恵みをいただく日々を送っています。

つてきて、「それをして、何が育ったのか」などという、目に見える能力の伸長を求める声が大きくなっています。字が読める、計算ができる、逆立ちができる、などというものは確かにわかりやすい。けれども幼児期は成果を求める教育ではなく、心の根っこを耕す時期だと本気で思っています。

「プ・ワンダー」の中で、次のように述べています。「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、将来の知識や知恵をばぐくむ肥沃な土壌であり。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときである」。そのことを、森で遊ぶ子どもの姿を通して発信し



「心の根っこを耕したい」

「評価」という概念が入

五感を働かせながら遊ぶことを通して育まれる心こそが、もっとも大事なのではないのでしょうか。福高応援団で培った粘り強さで、自分にしかできない仕事をやっていくというその著書『センス・オ

母校現役生たちの 「東京研修」にご協力を!

進路指導部が訪問先探し 頭を痛めています

福高進路指導部では平成23年度から1泊2日の「東京研修」を実施している。2回目の24年度は7月23、24日に、1、2年生総勢108名がやって来た。初日に中央官庁訪問と現役大学生を囲んでの座談会、2日目は東大見学と企業訪問と、非常に駆け足ではあるが濃密な内容だ(写真)。

取材に訪ねたのは1日目の夜、丁度座談会が行われていたところだった。和気藹々とした雰囲気の中、現役大学生の先輩が自身の体験を話しつつ質問に答えていった。ところで、OBから見ると、現役生の東京研修とはどのような意味を持つのだろうか。23年は生徒側で参加し、1年後の今回はOBとして座談会に協力した木場智之さん(高64回)は「昨年参加して、進学先に考えていた大学を実際に見て、進

学の意欲がより強くなった。今回は迎える側として、同郷の後輩を増やせるよう、座談会に参加した。学業面で先輩と後輩の交流ができる行事は少ないので、この研修を通じて後輩たちの力になれるらよいと思う」と話す。同窓生として献身的に研修に協力する姿には頭の下がる思いである。



今後の課題として福高側が頭を悩ませているのは、研修について協力を要請できる人脈が限られている点だ。東京研修に協力できる、したいとお考えの先輩諸氏、ぜひ母校にご一報ください。
(取材・報告 谷正俊・高57回)

関西だより

サライーマンのち弁護士6年目
人間関係に悩みつ

出会い、つながりを大切に一步一步前へ

荒木 博志(高44回)

卒業して早20年、もう関西にいた期間の方が長くなりました。もともと関西には縁もゆかりもなく、今でも「関西になじめていない」という感覚なのですが、不思議なものです。また、卒業してから長らく、友人関係を除けば、「福高」との縁を感じることがほとんどありませんでした。けれど、これも不思議なもので、昨年、関西福中・福高同窓会の総会のお手伝いをしたり、今こうして「東京あさばらけ」の原

稿を書かせて頂いていることに、人生、人とのつながりの妙を感じています。大学を出て、7年間サライーマンをした後、弁護士になりました。現在、6年目に入っており、日々悪戦苦闘、様々な事件や人と出会い、悩み、悲しみ、やるせなくなったり、時々笑ったり…で慌ただしく時間が過ぎていきます。

(大阪だから、というわけではないと信じています…) 本当にいろいろな人がいます。いい出会いもあるけれど、仕事柄、トラブルを抱えてどうしようもなく困っている依頼者の方々、話の通じない相手・クレーム等々、大変な思いをすることも多いです。



昨年担当した裁判員裁判の被告人の少年とは、今も時々手紙のやりと

りをしています。(もちろんそれで許されるわけではないのですが…) 少年には少年で、成長環境・家庭の事情等、悲しくなる背景もあります。けれど、やはり、被害者・ご遺族のことを思うと、つらい、複雑な気持ちになります。以前に、逆の立場で、犯罪被害者の方とその親御さんに頼まれて示談交渉や刑事裁判の付き添いをやったことがあり、その際、被害者やそのご家族がどれだけ耐え難い気持ちなのか、事件のせいでどれだけ深い影響を受け、歯をくいしばって生きているのかを近くで感じていました。

そんな様々な立場で、いろいろな人たちと関わると、正直、どういう気持の持ちようをするか悩むのかと思ひ悩むこともあります。でも、その時で、できるだけ多くの人たちに思いを致して考え、悩み、心寄り添うこと、そうしようと努力し続けることが大切かもしれない、と今は感じています。人間関係に悩むことも多いなか、どんな縁でも、やっぱりと人の出会い、つながりを大切にしながら、これからも一步一步前進したいと思っています。

博多だより

博多に戻り家業を継いで

山笠に福高に

人間関係の濃さ実感

吉川 和毅(高38回)

兄の急死で博多に戻って博多区上川端町にある家業の仏壇店を継ぐことになり、最初に驚いたのが人間関係の濃さでした。とりわけ際立っているのが、山笠(写真)などの地域行事、それと福高の同窓会関係です。

兄の急死で博多に戻って博多区上川端町にある家業の仏壇店を継ぐことになり、最初に驚いたのが人間関係の濃さでした。とりわけ際立っているのが、山笠(写真)などの地域行事、それと福高の同窓会関係です。

博多の象徴なんですよ。博多にいる人間として、今まで先輩方にしていただいたように、伝統を受け継ぎ次の世代に伝えていかないとですね。(高35回) にお任せして、私は委員の皆さんが活動しやすい環境をつくれたらと思います。陰ながらサポートしてまいります。

【新役員自己紹介&抱負】
副会長(総務担当)
栗川 稔(高16回)

同窓会活動活性化のために、趣味やスポーツの愛好会や大学別OB会活動の企画・支援を検討しています。

副会長(企画担当)
堤 義人(高30回)

また、名簿管理の一環として、自己登録制を前提としたメールアドレスの作成に取り組みます。ご協力の程よろしくお願いいたします。

副会長(中学担当)
大田ヒロ子(高20回)

旧制福中卒業の皆様の窓口を担当させていただきますことになりました。

総会・懇親会のご報告や、「東京あさばらけ」の原稿依頼等を通して、父親のような先輩の方々と交流を楽しませていただいています。メールでのご連絡大歓迎です。

副会長(会員拡充担当)
吉村 光正(高20回)

当委員会は若い会員の拡充が最大の活動目標です。フェイスブック等の新しい技術を取り入れた活動は新谷康之委員長

と、東京あさばらけの原稿依頼等を通して、父親のような先輩の方々と交流を楽しませていただいています。メールでのご連絡大歓迎です。

副会長(総務担当)
栗川 稔(高16回)

同窓会活動活性化のために、趣味やスポーツの愛好会や大学別OB会活動の企画・支援を検討しています。

副会長(企画担当)
堤 義人(高30回)

また、名簿管理の一環として、自己登録制を前提としたメールアドレスの作成に取り組みます。ご協力の程よろしくお願いいたします。

副会長(中学担当)
大田ヒロ子(高20回)

旧制福中卒業の皆様の窓口を担当させていただきますことになりました。

総会・懇親会のご報告や、「東京あさばらけ」の原稿依頼等を通して、父親のような先輩の方々と交流を楽しませていただいています。メールでのご連絡大歓迎です。



筆者

馬場副会長の後任の会計担当の山田です。川崎の工場で働いており、在学時は卓球部所属、出身は古賀中です。同窓会を盛り上げ、会費納入者が増えるよう一緒にがんばりましょう。ご協力よろしくお願いします。



第7回福高塾

母校教諭・剣道現役最高位
八段の岩熊昌毅先生

(高27回)を迎えて

「剣は心なり」を
キーワードに
人の在り方を説く

第7回福高塾は昨年11月2日、母校福高での教員生活27年を超え、剣道部監督でしかも剣道現役最高位である8段を持つ岩熊昌毅先生(高27回)をお迎えし品川区総合区民会館きゅりあんで開催しました。

剣道は幼少期に
お祖父さんから特訓人は考えた通りの
人間になれる

先生が剣道を始めるきっかけをつくってくれたのはお祖父さん。青ちゃん(チアノーゼ状態)で産まれ、体が弱かった(今のお姿からは想像できません)ため、幼少期からお祖父さんに剣道の稽古をつけられ、時にはお仕置きを受けながらも続けてきたというほど。

今回の講演のテーマ「剣は心なり」は、「幕末の三剣士」といわれた剣客の一人で儒教や禅にも通じていた島田虎之助の「それ剣は心なり。心正しからざれば、剣また正しからず。すべからず剣を学ばんと欲する者は、まず心より学ぶべし」という言葉からのものです。

貴重な資料・ビデオ映像を交え、現役先生の軽快な口調でのお話は講演というよりは講義の雰囲気。先生の父、重人氏は昭和29年から17年間、やはり福高で保健体育を教えた方。そのため、幼少時代から福高を訪れる機会が多く、体育祭の素晴らしいと感じ、多くの先生方に可愛がられ知合いになった。これが後々、福高に進学する強烈な動機になり、入学後は、そ

大切であると教わってきた、と思いい出を語られました。先生が初めて現役最高位である「剣道八段審査」に挑戦したのは2003年のこと。わずか2分間の対戦のなかで正確な「打ち」が求められるなど「日本一の最難関試験」といわれるこの挑戦を、先生は08年、4回目で突破しましたが、このお祖父さんの教えが、その後の先生の信条となり、昇段への原動力になったと感じました。



通して感じてこられた様々な思いや学んだことと、教育に対する熱い思い、実践を重ね合わせながら話されました。また、体育祭のDVDなどによる当世福高生事情の紹介では「体育祭のアトラクションが今風のダンスになって、これがまた上手」な一方、「ラグビーの準決勝の学校応援に塾があるという理由で行かない生徒も」などエピソード盛りだくさんのお話に福高卒なら誰しも心に思い当たるところがあったり、気になったりと、みんな聞き入っていました。

福友会ゴルフコンペ
グロス79の優勝は
目標のエイジ
シューターへ好材料
優勝者
高柳 義隆(高7回)

5頁の「エイジシューター達成をめざして」と題した私の記事をご覧になって、「あれ、また」と思われた方がおられるかもしれない。これには当の本人もビックリなので、少々ご説明を。

先の記事では、健康増進に興味のゴルフを活用した一挙両得の脳活性化案を紹介したのだが、有言実行を旨とする私は早速、インドアの練習場通い、筋膜ストレッチなど基礎的トレーニングを開始。また年齢、体力に相応しいと判断した「左一軸理論」のスイングを取入れてラウンドで実践しながら体に覚えさせ慣らし始めたところだった。

改めて感謝申し上げます。時間切れで紹介いただいたお話を残りは、改めて先生に取材の上、皆さまへお伝えできればと思います。

※

恒例の懇親会では、黒永事務局長の乾杯の音頭

そこに、福友会コンペ参加のお誘いをいただいたのだ。

そして11月30日、恒例の立川国際カントリークラブで開催されたコンペでは、すべての条件がうまくいったとみえて、年間2回目の70台のグロス79で回ることができ優勝。優勝者は当紙上で「優勝報告」をしなければならぬという光栄と責任があるとのこと、再登場させていただいた次第である。さて、うまくいった要素を考えてみると、「左一軸打法」のドライバースイングは9割がフェアウェイを外さなかったこと、セカンドショットの出来は5割ほどだったが、後の寄せがうまくいった。また、最後のパットは比較的良く31パットだった。特に忘れてはならないのは、同期の7回生4人の組み合わせをつくってくれた幹事さんのご配慮のお陰である。事がうまくいく時は、すべて幸運が付いて回るものだと思つた。



「達成」の目標にはほど遠いものの今回の優勝を、今後の練習の目安を立てる良い材料にしていきたいと思つている。福友会のみならずお誘いいただき、ありがとうございます。またまた感謝！

委員会報告

【会員拡充委員会】

新谷 康之(高35回)
当委員会では、主に若手会員の拡充をめざして、(1)各回常任幹事のサポート、(2)各回の連絡体制構築支援、(3)各回幹事との直接面会について「できることを」「できるところから」「できるだけ」実行する方針で取り組んでいます。

平成24年度は、昨春4月の総会・懇親会場で、主に高校40〜60回代の方々にアンケートを行いました(7ページに詳細)。その結果を受け、フェイスブックの活用、若手のニーズに合った会合の開催を検討することとしました。また、福岡県の各高校の同窓会の連絡会議ができ、その場を通じて他校同窓会の取組等の情報を集めています。今後もいろいろな場を通じて、会員拡充策の具体化に向けて取り組んでいきたいと思います。

【企画委員会】

副会長(企画担当)

堤 義人(高30回)

企画委員会は、河津明信さん(高33回)が新委

員長となり、さらに委員会メンバーも若手を中心に増強されました。

事業としては、企画委員会の定例事業となりました福高塾の第7回を、11月2日に現在福高教諭で剣道部部長の岩熊昌毅先生(高27回)をお招きし、品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて開催。「剣は心なり」人が人を育てるために必要なもの」と題してご講演いただきました。当日は、懐かしい恩師・同級生の話を聴こうと36名が参加され、非常に楽しく有意義なセミナーとなりました。

今年度も、行動派である新委員長が、「学年間の親交(ヨコの連携)」だけでなく、先輩後輩の親交(タテの連携)を深め、東京福中・福高同窓会の存在価値をさらに高める」という企画委員会本来の目的に、新感覚で取り組んでいくつもりです。

【広報委員会】

齋藤 利久(高16回)

東京あさばらけ第15号を発行しました。数多ある賞の中でも格別の名誉ある賞を受賞されたお二人を紹介できたことを誇

りに思います。

若い同窓生の同窓会への参加が伸び悩んでいる現在、会員の拡充が喫緊の要事となっています。

編集部では会員拡充に寄与できれば若い同窓生を多く紹介することを編集方針とし、今号では高40回以降の同窓生の寄稿を5件掲載しました。

寄稿依頼は世代のバランスを考慮しながら行っていますが、依頼が不調に終わる場合も少なくありません。皆様のご協力をお願いいたします。

また東京あさばらけ及びHPをさらに充実させるため皆様のご意見等をお寄せください。

【会計からの報告】

山田 健二(高27回)

目標の年会費納入者数

千名・200万円は、昨年度も達成できませんでした。お金を集めれば良いというものではありませんが、会費納入者が増えることは同窓会活動の認知度が上がることに繋がると考えています。同窓会が盛り上がり、結果として会費納入者が増えることを今後も目指していきます。同時に、同窓会の盛り上げのために経費を上手に使うよう各委員会と協力していきます。

また、同窓会名簿の維持管理を総務委員会と協力して実施しています。24年度は新しい管理方法の初年度で、一部不手際もあり常任幹事の方にはご迷惑をお掛けしましたが、改善していきますので引き続きご協力よろしくをお願いします。

【総務委員会】

鉢嶺 秀樹(高30回)

今年度は総務担当副会長として新たに栗川稔さん(16回)が就任、さらに、米島幹夫さん(37回)、藤本玲さん(38回)、岩瀬智子さん(39回)、佐藤洋さん(39回)、金城琢磨さん(46回)の新メンバーを加え新体制で動き始めました。

総務委員会の任務のひとつは、懇親会を準備運

東京福中福高同窓会
平成23年度 一般会計決算報告書

収入の部		支出の部	
決算	金額(円)	決算	金額(円)
前期繰越金	3,573,060	総会会場費	300,000
会費	1,848,000	総会案内発送費	374,039
広告料	410,000	常任幹事会会議費	413,913
寄付金	18,000	あさばらけ作成費	685,000
特別会計より	67,100	ホームページ維持費	51,870
その他	203,168	積立金	150,000
		雑費	126,000
		レンタル倉庫費	150,772
		他	220,000
		小計	2,471,594
		次期繰越金	3,647,734
合計	6,119,328	合計	6,119,328

平成24年度 特別会計決算報告書

収入の部		支出の部	
決算	金額(円)	決算	金額(円)
一般会計より会場費	300,000	会場費	2,497,471
参加費	2,982,000	企画経費	269,791
その他	66,055	進行経費	122,126
		動員経費	111,129
		その他経費	277,130
		小計	3,277,647
		収益	70,408
合計	3,348,055	合計	3,348,055

旭日重光章 おめでとうございます!

2012年春の叙勲で、高7回の安崎暁さん(元コマツ社長)が、また秋の叙勲では、高6回の有吉孝一さん(元安田火災海上保険社長・現損害保険ジャパン顧問)が、ともに受章されました。

《広告にお礼とお願い》

東京福中・福高同窓会では、同窓会活動に対する資金援助として当紙面での広告のほかに、ご寄付のお願いをしております。

ご寄付についてのお問い合わせは、会計の山田健二

(高27回:yamadak2@t05.itscom.net)

広告広告は広報委員会の古賀芳和

(高29回:kogay@lily.ocn.ne.jp)までお願いいたします。

また、同窓会名簿の維持管理を総務委員会と協力して実施しています。24年度は新しい管理方法の初年度で、一部不手際もあり常任幹事の方にはご迷惑をお掛けしましたが、改善していきますので引き続きご協力よろしくをお願いします。

の会。代表の高木雅治さん(20回)の下、40回生を中心に結束し着々と懇親会の準備を進めています。詳しくはウェブで、また16頁の案内記事をご覧ください。当番幹事と一緒に総務委員も4月20日に九段下で皆さまをお待ちしています。

編集後記

◆年に一・二度博多に帰る。街や同窓生から得るエネルギーを明日への活力とする。同窓会が思い出をたどる縁(よすが)ばかりでなく、活力の源となることを願う。

(齋藤利久・高16回)

◆ボクは怒り、悲しんでいる。通勤路の桜の洞にあつた2つのミツバチの巣が壊され、殺虫剤を撒かれたのだ。天敵ではなく病める人間によってだ。(福士義彦・高14回)

◆2012年はNPOの収益事業の立ち上げ等で充実した一年でした。福高22回東京地区の同窓会幹事を四年連続担当。還暦を過ぎ精神年齢は毎年若返りさせよう。

(上田正文・高22回)

◆この新聞が出る頃は新しい日本の方向も決っているでしょうが、年末選挙で大変化。激動転変すればするほど校訓の至誠励業剛健成風操守堅固の十二文字が輝やいて見えます。(原口紘一・高15回)

◆東京研修があつたのは大学の期末試験中、講師の大学生の皆さんは都合をつけて会場に駆けつけてくれた。卒業後も何らかの形で尽力してくれているのには頭の下がる思いだ。(谷正俊・高57回)

25年度総会・懇親会 4月20(土)開催!

テーマは
『さ道』 福中・福高に通った道。
そして…今、私たちが生きる道』
それぞれの時代をすごしたあの町「博多」を
思い出しながら、懐かしい友と語り合いませんか?
(高20・30・40・50・60 当番幹事一同)

母校の創立は1917年、まもなく創立100周年を迎える伝統校。この長い歴史を実感できるのが、東京福中・福高同窓会総会・懇親会です。

下は卒業したての若者から、上は福中の大先輩まで、幅広い年齢層の同窓生が一堂に会した光景をみると、これまで積み上げてきた福中・福高の歴史を一瞬で感じ取ることが出来ます。また、「同じ道を通い、同じ学び舎で過ごした仲間」と「同じ校歌や応援歌を歌う」ことは、福中・福高生であったことへの誇りや福岡(博多)への強い郷愁を感じさせてくれます。同窓会のメリットの一つは、様々な分野での同窓生の活躍が、日々の生活に迫られている自分への刺激になるという点があります。そこで今回の同窓会では次の企画を行います。

■活躍されている同窓の文化人にフォーカス
昨年、日本のノーベル賞とも言われる京都賞を受賞された、東京工業大学特任教授の大隅良典氏(高15回)にインタビュー。栄養不足に陥った細胞が自分の一部を食べて生き延びようとするしくみや意義を世界に先駆けて明らかにした研究の裏話や成功の秘訣を語っていただきます。

博多の町を離れて感じる「郷愁の想い」から「山笠」を取り上げます。櫛田神社への奉納神事で、日本三大祇園祭の一つでもある博多祇園山笠。70年を超える歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「千代流れ」校区に立地した福中・福高は、昇き山が校内に入る唯一の高校です。毎年7月15日4時59分のあの緊張感とそれが一気に勇壮な男たちの走りへと声が変わる瞬間を迫力ある映像とふくや社長・川原正孝氏(高20回)の解説で体感していただきます。

■博多の「道」を勇壮に走る山笠に思いを馳せる博多の町を離れて感じる「郷愁の想い」から「山笠」を取り上げます。櫛田神社への奉納神事で、日本三大祇園祭の一つでもある博多祇園山笠。70年を超える歴史を誇り、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「千代流れ」校区に立地した福中・福高は、昇き山が校内に入る唯一の高校です。毎年7月15日4時59分のあの緊張感とそれが一気に勇壮な男たちの走りへと声が変わる瞬間を迫力ある映像とふくや社長・川原正孝氏(高20回)の解説で体感していただきます。

■会場はグラントパレス
会場は例年どおり、九段下駅近くのホテルグラントパレスです。当番幹事一同、皆さまのお越しをお待ちしています。平成25年度同窓会総会・懇親会4月20日(土)開催!

1回を6月21日に総会の予算・決算の審議及び反省等を行いました。第2回は9月に上記の同窓会総会、懇親会の企画及び予算を審議し、承認されました。

2月の常任幹事会では、現在60名の常任幹事の方々は事務局に連絡先の届出がされています。転勤等で常任幹事の方の変更がありましたら、速やかに事務局までご連絡ください。

【事務局報告】

黒永哲至(高26回)

事務局の主な業務は、総会運営と、各回の常任幹事との連絡及び年3回の常任幹事会の設営です。

平成24年度の決算・次期予算の審議等がありました。その詳細は4月の総会で報告します。

平成24年の総会は4月21日に開催され、皆様のご協力で無事終了することができました。同年常任幹事会は、第1回を6月21日に総会の予算・決算の審議及び反省等を行いました。第2回は9月に上記の同窓会総会、懇親会の企画及び予算を審議し、承認されました。

2月の常任幹事会では、現在60名の常任幹事の方々は事務局に連絡先の届出がされています。転勤等で常任幹事の方の変更がありましたら、速やかに事務局までご連絡ください。

平成24年度の決算・次期予算の審議等がありました。その詳細は4月の総会で報告します。

編集後記

◆3年前から大学のボート仲間とシニアクルーを結成して漕ぎ始めた。最初は遊び程度だったが、今ではハードな練習で随分向上した。私には仲間と励まし合う「団体スポーツ」に向いている。(古賀芳和・高29回)

◆平家物語によると、鶴(ぬえ)は、頭が猿、胸は狸、尾は蛇、手足は虎。はじめ、ゾツとしましたが、歌川国芳の画では愛嬌のある動物です。これだけの構想力が、私にも備わっていたら。(黒田義治・高7回)

◆数年前から卓球三昧。試合にも出ますが、いいところで勝利を逃します。勝利を逃すルーツを高校時代の百人一首部で発見。3位になれるなら準決勝戦で燃え尽きんかい! 人生こげな感じ?(岩瀬智子・高39回)

平成24年度 東京福中・福高 同窓会総会・懇親会報告 「福中・福高の遺伝子」 感じましたか?

「9の回」当番幹事一同

3回目となるホテルグラントパレスでの開催は例年心配される雨も降らず、400余名の同窓生と集うことができました。総会には、福中・福高同窓会の新宮松比古会長、関西福中・福高同窓会の

市橋和明会長、東京福中・福高同窓会の佐伯尚孝会長と、本総会では久しぶりに3人の会長が揃われました。当番幹事である9の回は、本懇親会のテーマを「福中・福高の遺伝子」と設定し、同窓生に年代を超えて脈々とつながるものは何かを見つめる機会になればと企画を練ってきました。各学年のアルバムから懐かしい場面を選び、懐かしいメロディーとともに紹介したスライドショー、高ラグビー部部長である高33回牟田口享司先生と



は、本懇親会のテーマを「福中・福高の遺伝子」と設定し、同窓生に年代を超えて脈々とつながるものは何かを見つめる機会になればと企画を練ってきました。各学年のアルバムから懐かしい場面を選び、懐かしいメロディーとともに紹介したスライドショー、高ラグビー部部長である高33回牟田口享司先生と

能楽師大鼓方高安流の高39回白坂保行さんの「福高の遺伝子とは何か」といったテーマをもとにしたインタビュー(録画)をご覧いただきました。

また、当番幹事学年の高39回の4名の応援団員のリードによる応援歌・拍手、祝い目度から手一本と、福中・福高、そして博多の「遺伝子」を強く感じる懇親会のフィナーレを演出することができたと思います。至らぬ点もあったかと思いますが、当番幹事一同、ご参加の皆様には厚く御礼申し上げます。

会費納入のお願い

同窓会総会の案内、「東京あさばらけ」の送付にあわせて平成24年度会費納入(2000円)払込取扱票(郵便振替)を同封させていただきました。払込取扱票の通信欄、ご依頼人欄に卒業年次、住所、お名前、電話番号を忘れずにご記入のうえ、会費をお払い込みくださるようお願いいたします。郵貯のATMでの振込みも可能ですので活用ください。通信欄は名簿と照合し、住所変更がある場合は名簿を訂正しています。ただし、平成25年度は中学卒、高校9回卒までの会員は会費免除です。

加入者名 東京福中福高同窓会
払込先口座番号 00190-4-94980

東京福中・福高同窓会ホームページにある「同窓会からのお知らせ会費のお支払いについて」もご参照ください。ご不明な点は会計の山田健二までご連絡ください。

メール: yamadak2@t05.itscom.net